令和6年度「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業（J-PEAKS）」の審査における
地域中核・特色ある研究大学の振興に係る事業推進委員会の総評

令和7年1月 24 日
地域中核・特色ある研究大学の振興に係る事業推進委員会

令和6年度「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業（J-PEAKS）」の申請において、65 の大学が魅力的な提案を提出されたことに対し本委員会として心より敬意を表します。

各大学からの提案では、大学が自らの課題に真摯に向き合いつつ、10 年後に目指す姿を構想し、それに向けて強化が必要な研究分野や社会実装を目指すテーマを見出した上で、研究力の向上戦略とそれを実現するための計画が構想されていました。

その中でも特に採択大学については、主に、以下の点について総合的に勘案し、高く評価しました。10 年後には、これらの大学が世界の中で輝く大学となることを期待します。

① 客観的かつ多面的なアウトプット・アウトカム指標から大学の研究力を十分に分析していること
② 戦略の実現に向けて学長を中心とした取組が着実に実施されるよう、大胆かつ実効的な計画やロードマップを設けていること
③ 大学院改革を含めた、改革について大学全体への波及効果を期待できること
④ 地球規模の課題解決や社会変革に繋がるイノベーションを創出する機能や体制が整備されていること
⑤ 地域社会との実効的な連携の下で地域課題解決に貢献しうる計画となっていること
⑥ 他機関との効果的な連携等を通じて自大学の強みを更に発展させる戦略となっていること
⑦ 戦略の推進に必要なガバナンス体制が整備されていること

なお、挑戦的な取組が多いがゆえに困難な道のりとなることも考えられます。文部科学省及び日本学術振興会には、外部有識者の知見も活用しつつ、各大学の主体的な取組を尊重した、大学に寄りそった支援を求めます。

不採択大学についても、学長を中心に全学的な戦略の検討を行い、魅力的な提案を申請されたことは大いに評価しています。特に、昨年度に引き続き申請された大学については、事業推進委員会からのコメント等を踏まえて多くの改善が見られました。しかしながら、戦略やそれを実行するための計画については、その解像度を高めたり、具体化を進めたりするための更なる掘り下げた検討が必要と考えられ、採択件数を事業全体で最終的に最大 25 件程度としている中で、今回の採択候補として選定しないものと判断しました。

本事業への申請のための全学を挙げた検討が今後の大学の発展に当たっての礎となり、研究大学として引き続き奮励されることを期待します。

本委員会ではこの2年間を通じて、昨年度公募では 69 件（提案大学：69、連携大学：

延べ 87)、今年度公募では 65 件(提案大学:65、連携大学:延べ 66)と、広く全国から大変多くの申請を受けて審査を行い、最終的に計 25 件(提案大学:25、連携大学:延べ 26)を採択にふさわしい大学として選定しました。また、これら大学群の提案の中には、国内だけでなく、多数の海外の大学・研究機関と連携・協力して行う事業が含まれており、グローバルな拡がりを持つものとなっています。

これらの大学群においては、その総体として、これまでの互いに競い合う関係を超えて、個々の特色を際立たせつつ、互いにその取組を共有し協力し合う関係も持つ集団(J-PEAKS 大学群)へと発展されることを望みます。その上で、伴走支援も活用しながら、大胆かつ実効的な改革を進め、国際卓越研究大学を含めた国内外の大学間での効果的な連携における中核的な存在を担い、日本の研究力を牽引する地域中核・特色ある研究大学へと発展されることを強く期待します。

さらにそれらの成果を、採択されなかった大学を含む大学群総体の研究力強化と人材育成につなげることにより、地域経済社会と国内外の地球規模の課題解決や社会変革に繋がるイノベーション創出に貢献することを希望します。